

わたしの歩んだ道

あゆみち
萩原智子さん

〈プロフィール〉

シドニーオリンピック200m背泳ぎで4位、200m個人メドレーで8位入賞。春日井市では平成28年から「萩原智子杯水泳競技大会 in 春日井」を開催。春日井広報大使。



苦手を克服するため始めた水泳が水泳を始めたのは小学2年生のとき。海で溺れてしまい、そのことが悔しくて、泳げるようになるためスイミングスクールに入りました。

コーチに見込まれ競泳の道へ

泳ぎを身に付けてきたころ、私の身長が高かったこともあり、コーチから声を掛けられ小学3年生のときに競泳

コースに入り、大会に出始めました。しかし、当時は体幹が弱かったため長身の体をつまく使いこなせず、大会ですぐに結果が出たわけではありませんでした。

また、練習は週2日から5日に増え、1回の練習時間も倍以上に。とてもきついものでした。

支えてくれた周りの人たち

競泳は泳ぎ込みが大切です。春から大事な大会が始まるため、冬場はひたすら泳ぎ込みます。一番多いときで1日に16km泳いだこともあり。そんなつらい練習の中で、何度も水泳をやめたいと思いました。しかし、私がやめずに続けてこられたのは、周りの支えがあったからです。みんなの支えを力に変え、練習に励んだことで、徐々に大会でも結果を出し、オリンピックに出場することができました。

オリンピックは別世界

先輩から「オリンピックは全然違つ」と言われていた通り、本当に別世界でした。控え室のドアが歓声で揺れていて「とんでもないところに来てしまった」と震えました。他の国際大会では気軽に話す選手が目も合わせない。みんな「勝ちたい」という気迫があふれていました。そんなときも、支えてく

れたのはたくさんの人たちの応援でした。「一人じゃない」と思えたことで、オリンピックという大舞台で戦い抜くことができました。私の人生において最も大きな経験です。

春日井は笑顔があふれるまち

水泳教室などで全国各地を回っていますが、春日井ほどみんなが笑顔で迎



夢をかなえるために

私は競泳コースに入ったころから、いつも周りに「オリンピックに出たい」と話し、それを聞いた近所の方は「オリンピックに出るんだよね。頑張ってるね」と声を掛けてくれました。自分の夢を言葉にすることで、周りがサポートしてくれます。だから私はくじけそうになったときに、たくさんの方が支えてくれて、つらいことを乗り越えることができました。皆さんも、自分の夢を言葉にしてみてください。

えてくれる場所はありません。子どもたちは競技レベルが高いし、いつも元気で積極的に話し掛けてくれる。来るたびに元気をもらっています。また、サンフロッグ春日井は屋内の50mプールや国際水泳連盟公認のスターティングブロックがあり、全国でもトップクラスの水泳施設だと思います。春日井から、全国や世界で戦える選手がどんどん出てきてほしいと思います。